

- JFPAは5Aの実現を目指します!
- ① Adolescent 思春期保健の推進
  - ② Abortion 人工妊娠中絶の防止
  - ③ Access どこでも誰もがサービスを受けられる
  - ④ Advocacy 啓発・提言活動
  - ⑤ AIDS STD及びHIV/エイズの予防

# 家族と健康

健康教育情報紙

一般社団法人 日本家族計画協会  
 リプロ・ヘルス推進事業本部  
 健康教育推進本部  
 協力：公益財団法人予防医学事業中央会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館  
 電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jfpa.or.jp  
 発行人：近 泰男 編集人：櫻田 忠宏 henshu@jfpa.or.jp  
 毎月1回1日発行 年購読料¥3000+税 1部¥300+税千共

## 平成25年度 健やか親子21全国大会 山形県で開催 (母子保健家族計画全国大会)

妊娠・出産の適齢期(研究集会)、訪問型子育て支援(シンポ)をテーマに



本学会会長表彰の様子

◎家族計画研究集会  
 今年度は「いつか子どもが欲しい」と思っているあなたが、指導者としていつ、誰に、どう伝えるか」をテーマに開催。冒頭、北村邦夫・本会家族計画研究センター所長は、妊娠・出産には年齢的な限界があるとした上で、草食といわれる若者のセックス嫌いから、

◎訪問型子育て支援(シンポ)  
 「コミュニケーションスキル」にまで言及し、近年における晩婚・晩産化の現状について語った。また、先進諸国に比べて大きく「誰に、どう伝えるか」をテーマに講演。思春期から生涯にわたって作られる精子と違い、卵子の数は限られていることについて言及した。胎生期におよそ700万個ある卵子は閉経を迎えるまで、加齢とともに減り続ける。そのため、年齢の上昇とともに妊娠率は下がることが触れた上で、「あなた自身はいくつまで自然に妊娠できると思いますか?」という問いに対し日本人の未婚女性の37%が「45〜60歳」と答えたという調査結果を紹介。また、体外受精による出生率は20歳代でも平均で20%程度、40歳代になると10%を下回るという現実も、一般的な認識と隔たりがあることを述べ、実際と一般

10月16日〜18日、山形市の山形テルサで、平成25年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)が開催された。主催は本会ならびに厚生労働省、山形県、山形市、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会、公益社団法人母子保健推進協議会。全国から母子保健事業・家族計画関係者約650人が参加し、「みんなが子育て応援団」健やかな妊娠・出産、すくすく子育て」をテーマに、講演やシンポジウム、功労者の表彰が行われた。本会は家族計画研究集会を主催し、214人が参加した。

◎シンポジウム  
 「地域の力を活かして、みんなが子育て応援団」訪問型子育て支援から考えよう」をテーマに開催。基調講演として西郷泰之・大正大学人間学部教授は、日本では平成21年から始まった訪問型育児支援「ホームスタット」について詳しく紹介。育児指導は一切行わず、ボランティアが親と対等な関係で、ただ対象者の話を聞く「傾聴」のスタイルが、親の気持ちを元気にすると伝え、その重要性をアピールした。

◎特別講演  
 山形県出身の絵本作家・荒井良二氏が「ほくほくの窓から」と題し講演。自身が行った親子参加のワークショップでの経験を紹介し、「僕は子どもたちに投げかけるだけ。あまり導いてしまわない」と、子ども自身自身の感覚で考える大切さを伝えた。

来年度の大会は、平成26年11月25日〜27日、愛媛県松山市で開催予定。

### 今月のページ

- 性暴力・中絶・買売春 日弁連、シンポジウムを開催 2面
- 更年期障害の「診たて方」 3面
- 思春期保健相談士、各地で活躍 4〜5面
- 地域ぐるみで乳がん予防 6面
- 海外情報クリップ 女性の権利としての安全な中絶と避妊/米国内でいまだに多い膈外射精による避妊 7面
- 避妊教育ネットワークリレートーク④ 8面



(6面) (4〜5面)

### トピック

#### 40歳代の中絶が増加 平成24年度 衛生行政報告例

厚生労働省は10月24日、平成24年度の衛生行政報告例を公表。平成24年度の人工妊娠中絶件数は19万6639件で、前年度に比べ5467件(2.7%)減少。総数は初めて20万件を下回ったが、年齢階級別にみると40歳代では増加。特に40〜44歳はこれまでずっと減少傾向が続いていたが、今回の統計で初めて436件(2.8%)増加した。20歳未満の中絶件数は2万659件で、前年度に比べ59件、前年度に比べ244件(1.2%)減少したが、年齢別にみると15歳と18歳が8.9と高かった。

人工妊娠中絶実施率(15〜49歳の女子人口千対)は7.4。年齢階級別では20〜24歳が14.1と最も高く、25〜29歳が11.8と続く。20歳未満の中絶実施率は7.0だが、20歳未満を年齢別にみると、19歳が12.0、18歳が8.9と高かった。

MSD

かしこく、正しく、自分らしく  
 避妊情報サイト  
 あなたが選ぶ避妊スタイル

このサイトはOC(低用量経口避妊薬)や避妊についての正しい知識を身につけていただくことを目的としています。

http://www.hinin-style.jp 避妊スタイル 検索

MSD株式会社 〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア http://www.msd.co.jp/

2013年2月作成  
 MAV13AD011-0215

# 性暴力・中絶・買売春

## 日弁連、シンポジウムを開催



パネル討議の様子

日本弁護士連合会は9月21日、「セクシュアル・リプロダクティブ・ライツ」女性に対する暴力と人工妊娠中絶・買売春問題」と題したシンポジウムを都内で開催。わが国のセクシュアル・リプロダクティブ・ライツ(性と生殖に関する権利)に関わる問題として性暴力と中絶、買売春を取り上げ、被害者支援の立場からの現状報告や、パネル討議が行われた。

◆日弁連で意見書策定  
日弁連では今年6月、「刑法と売春防止法等の一部削除等を求める意見書」を策定。これは、

「人工妊娠中絶を可能な限り避けること、性的搾取の被害者を救済すること」という目的達成のために、対象とされている女性を刑事処罰するという手段は相当でなく効果的でもない、また刑事処罰は「実態を潜在化させる危険性の方がはるかに高い」ことから、刑法、母体保護法、売春防止法の一部削除等を求めるもの。特に中絶を「墮胎罪」とする刑法の規定を重視。中絶を可能な限り避け、性的搾取の被害者を救済するためには、刑事処罰よりも「例えば、

性教育や家族計画の普及等の充実、暴力的性行為の防止等の他の対策などの拡充」等が図られるべきと提言している。

シンポジウムではこの意見書が、日弁連の取り組みとして紹介された。

◆深刻な性暴力被害  
性暴力救済センター・大阪(SACHICO)代表の加藤治子氏は、大阪府の医療機関内に設置された同センターの活動について報告。同センターはホットラインと常駐の支援員、産婦人科医師らにより、24時間体制で性暴力被害者の支援に当たっている。

2010年4月の開設時から13年3月までの3年間に寄せられた電話は1万160件、来所は1746件。初診人数は577人の内、未成年者は64.1%を占め、子どもの被害が多かった。妊娠した66人の内、被害内容の2割を占める性虐待で妊娠したのは1人のみで、加藤氏は「性虐待の被害者は、避妊をして性虐待が発覚しないようにしている」と指摘。事態の深刻さを浮き彫りにした。

◆売春の背景にも性虐待  
この他婦人保護施設の現場からは、居場所を失い、売春に追い込まれた施設利用者の背景にある貧困、性虐待などの厳しい現状が報告された。また中絶については、出生前検査が行われるようになり、より複雑になったわが国の状況や、世界保健機関(WHO)の「人工妊娠中絶の技術および政策のガイドライン」についても報告された。

長、武井正子(順天堂大学名誉教授、野末悦子(久地診療所婦人科医師)、福田護(聖マリアンナ医科大学付属研究施設プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長)、小山嵩夫(小山嵩夫クリニック院長)、大川玲子(国立病院機構千葉医療センター産婦人科) 産婦人科) 【開催日】平成26年2月7日(金)9日(日) 【会場】マツダ八重洲通ビル9階マツダホール(東京都中央区) 【受講料】3万円(税別) 【対象者】保健師、助産師、看護師、医師、栄養士、看護職員、相談員等、保健、医療、教育、福祉に携わる方 【主催】本会 【後援(予定)】厚生労働省、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本女性医学学会、NPO法人更年期と加齢のヘルスケア

## 中高年女性保健セミナー

### 第40回「中高年女性保健セミナー」―生涯を通じて女性の健康をサポートするために―

本セミナーは女性の健康と生活の質を向上させることを目的として、中高年女性の健康相談やその指導事項を増やしていく。特に中高年期の女性に対しては、更年期を迎えた後も元気にいきいきと人生を過ごすための指導が求めら

【トピック】コメディカルとの連携、心の変化とケア、保健指導とメタボリックシンドローム、尿失禁、骨粗鬆症とロコモティブシンドローム、フ

### 受講者募集

【会場】マツダ八重洲通ビル9階マツダホール(東京都中央区) 【受講料】3万円(税別) 【対象者】保健師、助産師、看護師、医師、栄養士、看護職員、相談員等、保健、医療、教育、福祉に携わる方 【主催】本会 【後援(予定)】厚生労働省、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本女性医学学会、NPO法人更年期と加齢のヘルスケア

## 復活！「コメディカルのための 遺伝の基礎を学ぶセミナー」

本セミナーの企画に当たっているという回答が最も多く、次いで「遺伝は難しいイメージがある」という回答が寄せられました。このようなア

## 第5回

# 思春期ピアカウンセリング全国大会開催

## 熊本にピアっ子が集合



第5回思春期ピアカウンセリング全国大会が10月12日・13日、熊本市の国立阿蘇青少年交流の家で「アイシテル」をテーマに開催された(主催：日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会、後援：本会)。

1日目の講演は「話すから聴く私へ」をテーマに、矢部絹子氏が自身のテレビ局時代、キャリアアカウンセラ「時代の体験」を交えて「傾聴の勧め」を語った。

◆参加者の感想  
第5回思春期ピアカウンセリング全国大会に参加して、改めてピアカウンセリング活動が全国的な活動であるということ、同じ志を持った仲間が日本中にいるということを感じられた。他県の方との交流も多かった。

今回の全国大会での学びは、東京のU・COMのメンバーとも共有し、今後の活動に生かしていきたい。そして、全国のピアっ子の一員として、ピアの活動をもっと広めていければと思う。(JFPA若者委員会U・COM事務局 鈴木みさき)

## 日本の性のデフレーション

### 第14回性科学セミナー、横浜で開催

本会等の7団体で組織する「性科学セミナー」が9月14日、横浜市社会福祉センターホールで開催された。「日本の性のデフレーション」をテーマにした6人の講演が行われた。

全体ディスカッションでは、わが国では若年者から中高年に至るまで、全体的にセックスレスが進んでいることが話題となった。

医療現場からは「人工妊娠中絶は減っているが、社会的にハイリスクな中絶は増えている」との意見もあり、わが国の社会的、経済的な格差の問題も指摘された。





# 士、各地で活躍

本会では毎年、思春期の若者たちの相談に応じるカウンセラー「思春期保健相談士」の養成を行っており、これまでに全国で約8,200人もの方々が資格を取得しております。今号では、それら全国各地の思春期保健相談士の方々が参加した「第11回思春期保健相談士学術研究大会」(6月2日開催)で発表された行政、医療機関、団体や研究会などで活躍する方々のさまざまな取り組みの報告を掲載いたします。(編集部)

## 地域を巻き込んだ思春期教育

和歌山県橋本市健康課母子保健係 保健師 壺井 純子

### はじめに

連日のようにテレビ、新聞をにぎわしている虐待の問題は、本市(人口約6万7千人、平成24年度出生数423人)でも深刻な状況となつてきている。また、10代の妊娠、経済的に不安定な家庭が増加してきており、子どもたちが健全に育つるために弊害となる状況が生じてきている。

この時期の子どもたちが健やかに育っていくためには、地域の見守りが重要であることから、母子保健推進員やほっとシッター(地域の子育てを支援するボランティア団体)主任児童委員を数人含む、地区公民館の協力を得て実施しているのをご報告する。

▽平成23年度希望校(小学校5校、中学校2校)で実施  
▽平成24年度希望校(小学校)市内全小学校(14校)、参加児童数590人、参加保護者214人、母子保健推進員72人(延べ)  
▽中学校 希望校3校、参加生徒数246人、ほっとシッター55人(延べ)

たいと思います。1つ1つの行動に責任を持ちたいと思えました。  
▽学校では聞けなかったことや初めて聞いたことがたくさんあってすごく勉強になりました。

小学校の授業では、母子保健推進員に準備から実施、後片付けまでを協力していただいているが、これあいを喜んでくれていた授業の重要性を認識し、やりがいを持ちつつ積極的に活動してくれていました。

この授業に取り組み始めた、まだ4年目であるが、授業に関わった方や授業を聞いた保護者からの反応は大きく、自主的に啓発活動を行ってほしい、市の広報で特集が組まれたり、地元FMラジオで取り上げられたりと、この取り組みが根を張りつつあるのを実感している。

子どもたちを取り巻く現状はかなり厳しいが、子ども自身に生きる力をつけていくことはもちろん、家庭・学校・地域・行政が将来を担う子どもへの理解を深め、温かい目で見守ることのできる環境づくりを目指す。本授業を充実・発展させていければと考えている。

表 実施内容

対象	内容
小学校	【群馬県鈴木助産院、鈴木せい子氏の指導を元に実施】 (1)あなたにとって一番大切なものは?の問いかけから、いのちの抱っこ体験 (2)胎児人形の抱っこ体験 (3)聴診器もしくは脈拍測定により、自分のいのちを実感し、胎児と比較する (4)子宮モデル使用による出産疑似体験 (5)保健師からのメッセージ ※小学校では授業終了後保護者に「思春期の子どもとの向き合い方」について保健師より20~30分話をしている。
中学校	【本市独自で企画し、初回実施校の養護教諭と内容を検討して実施】 (1)保健師による講義(1時間) ①胎児の成長と「いのち」について考える ②二次性徴期の心と身体を男女の違いという観点で考える ③人工妊娠中絶について ④性感染症について ⑤皆さんへのメッセージ (2)皆グループワーク(6~7人、男女別) 一保健師、社会教育課の男性職員(30分) (3)乳幼児との交流-ほっとシッターによる手遊びなど(30分) ※地区公民館には乳幼児との交流の際に参加してくれる親子サークルへの呼び掛けをいただいている。

## 妊娠中絶を繰り返さないための取り組み

国立病院機構千葉医療センター 助産師 本田 優子

### 研究目的

当院は公的な病院として多くの妊娠中絶を行っているが、それは医学的合併症だけでなく10代の人工妊娠中絶14症例のまとめを発表した2010年の日本母性衛生学会の時点での中絶後の実際の避妊行動を見るなど社会的ハイリスク症例を引き受けているためである。2008年3月の反省をもとに実現可能

から約2年間に介入した10代の人工妊娠中絶14症例のまとめを発表した2010年の日本母性衛生学会の時点での中絶後の実際の避妊行動を見るなど社会的ハイリスク症例を引き受けているためである。2008年3月の反省をもとに実現可能

2日ないし3日の入院とし、北村らの研究報告をもとに、手術前の指導を原則とした。担当助産師が、本人・パートナー・保護者それぞれに指導を行うに当たり、相談室(写真)を使用しソファに左右並んで座るようにした。安心・安全なセッティング、確実な避妊方法として低用量経口避妊薬・ピル(OC)を第一選択とし、コンドームはSTI予防に必要であると説明。コンドームの装着法は模型を用いて行う。妊娠に至った経緯を語り、避妊やSTI予防を促す。避妊やSTI予防を促す。避妊やSTI予防を促す。

退院後に実際に行っている避妊法を比較すると1群では、指導時の自分の選択と違った行動をとる者の中で「受診せず」8人、一方2群は「コンドーム+OC」4人、「OC」3人、「コンドーム」2人と、それなりに堅実な選択をしており、「受診せず」が1人いるが、1群に比べれば、かなり良い成績であった。

また、OC処方の増加につなげた要因として医師との情報共有を綿密にしたこと、退院後の外来受診時に今後の避妊法を分かりやすくカルテに記載したことがある。



乳幼児と中学生の交流

▽平成22年度モデル校(小学校1校)で実施  
▽平成23年度希望校(小学校5校、中学校2校)で実施  
▽平成24年度希望校(小学校)市内全小学校(14校)、参加児童数590人、参加保護者214人、母子保健推進員72人(延べ)  
▽中学校 希望校3校、参加生徒数246人、ほっとシッター55人(延べ)



担当助産師による相談室での指導

まず、介入を計画するにあたり、日本家族計画協会の思春期保健相談士資格を取得。病棟で伝達講習を行うとともに、当院の指導システムを検討した。患者指導用小冊子「妊娠中絶を繰り返さないために」および、避妊指導サマリーを作成。助産師によるカウンセリングの指導を開始した。指導の充実を図るため、妊娠初期中絶を含め

子どもたちを取り巻く現状はかなり厳しいが、子ども自身に生きる力をつけていくことはもちろん、家庭・学校・地域・行政が将来を担う子どもへの理解を深め、温かい目で見守ることのできる環境づくりを目指す。本授業を充実・発展させていければと考えている。

子どもたちを取り巻く現状はかなり厳しいが、子ども自身に生きる力をつけていくことはもちろん、家庭・学校・地域・行政が将来を担う子どもへの理解を深め、温かい目で見守ることのできる環境づくりを目指す。本授業を充実・発展させていければと考えている。

子どもたちを取り巻く現状はかなり厳しいが、子ども自身に生きる力をつけていくことはもちろん、家庭・学校・地域・行政が将来を担う子どもへの理解を深め、温かい目で見守ることのできる環境づくりを目指す。本授業を充実・発展させていければと考えている。



# 思春期保健相談



卵子と精子のモデルを使って指導

## これまでの活動とこれから

### ネットワークの重要性

いこの性を伝える出前講座は、  
ココカラウィメンズクリニック

助産師

清水美由紀

#### 活動のきっかけ

助産師として産婦人科  
病棟での勤務が始まって  
間もなくの5月、初めて  
中期人工妊娠中絶の担当  
となりました。新人の私  
は「命の誕生をお手伝い  
する助産師」が「命を絶  
つことのお手伝いをして  
いる」と思い大きなショ  
ックを受けました。  
今であれば中絶に至っ  
た背景や環境、繰り返さ  
ないための指導など他に  
考えるべきことはあるの  
ですが、当時の私にはシ  
ョックが大きく、とにかく  
患者さんの前で泣きな  
いという事に必死にし  
た。この体験をきっかけ  
に、自分のライフワーク

は周産期ではなく「望  
まない妊娠を防ぐこと」  
だと決意したのが活動  
のきっかけです。  
その後、平成17年に思  
春期保健セミナーコース  
Iを受講し、3年かけて  
思春期保健相談士を取得  
しました。思春期保健セ  
ミナーではたくさんの方  
と出会い、交流を深めて  
いき、現在は小・中学校、  
高等学校での性に  
関する  
講座のほか、現職場であ  
るココカラウィメンズク  
リニック(名古屋市中  
区)に  
て思春期相談、ベビーマ  
ッサージや保護者向けの  
思春期保健講座も開催さ  
せていただいています。

現在の活動の場は以下  
の三つです。  
①有償ボランティア団体  
「いのちと性を伝える出  
前講座はぐ」での思春期  
保健講座(小学校・高等  
学校、特別支援学校)  
②個人での思春期保健講  
座(中学校) ※保健セン  
ターとの連携  
③クリニックでの活動  
(思春期相談、ベビーマ  
ッサージ、保護者向け思  
春期保健講座など)

これらの活動の原動力は  
上述した通り思春期保健  
セミナーです。  
思春期保健セミナーで  
出会った愛知県、三重県  
の保健師や体育教師など  
で情報の共有、意見の交  
換などをする交流会を始  
めました。その交流会の  
中で性教育を進めていき  
たいがどのように始めた  
らいいかわからないと話

にもありますが仕事の休  
みを利用して月に1〜4  
回程度思春期保健講座を  
担当しています。  
②の保健センターとの  
連携は上級思春期保健相  
談士を取得した後、コー  
スアシスタントとして思  
春期保健セミナーコース  
IIIに参加した際の自己紹  
介で、愛知県内の小・中  
学校などで思春期保健講  
座をしていただくことを話  
し、現在では時期

たこときつかけに、保  
健センターの保健師が声  
を掛けてくださいますし  
た。保健センターの管轄  
する地域の中学校での講  
座を担当するようになり  
ました。  
③は院長が私の思春期  
保健相談士としての活動  
を理解し、応援してく  
れ、思春期相談や、ベビ  
ーマッサージ教室の開  
催、ラジオの出演など新

たな活動の場を増やすこ  
とができました。小・中  
学校での思春期保健講座  
だけでなく、個人と向き  
合える思春期相談や、保  
護者に関わることででき  
る場ができたことは思春  
期保健相談士としてとて  
もよい機会になりました。  
今までのことから  
助産師資格を取得して

10年間、自分なりに思春  
期問題と向き合ってきた  
した。現在まで思春期保  
健講座を中心とした活動  
が継続できたのは「ネッ  
トワーク」に支えられて  
きたからだと思っていま  
す。今後はさらに研鑽  
し、地域を越えて自らの  
ネットワークを強化し、  
思春期保健相談士として  
の活動を広げていきたい  
と思っています。

●思春期保健相談士になるには  
本会主催「思春期保健セミナー」のコースI  
(総論編)、コースII(各論編)、コースIII  
(実践編)の全課程を修了していただきます。  
受講資格は、保健師、助産師、看護師、養護教  
諭、看護教員、医師、保育士、児童指導員、少  
年補導員等の資格を持つ方です。  
〔平成26年度 思春期保健セミナー開催予定〕  
コースI 平成26年9/26〜28(東京・大  
阪、コースII 平成26年11/1〜3(横浜、コ  
ースIII 平成27年1/10〜12(成田) ※コース  
I大阪は中継方式、コースIIIは宿泊研修です。  
〔問合せ〕研修担当 ☎03(3)269(4)785

## 養護教諭を目指す大学生による

### ピア活動を支援して

岡山SRH研究会  
ウィメンズクリニック・かみむら

看護師

加藤 裕香

#### はじめに

性教育を行うに当たっ  
て、若者が若者に正しい  
性の知識を伝えること  
が重要だと感じています。  
ピア・エデュケーション  
で確実な効果が上が  
ると言われています。ただ  
し、大学生にただ避妊や  
性教育を行うに当たっ  
ては、ピア本来の意味で  
ある「仲間」からはほど  
遠い。またカウンセリン  
グの手法や開発トレーニ  
ングなどをしっかり教え  
込んでいく必要があると  
感じています。この3年余  
りの活動状況について報  
告する。

性知識を教える、それを  
子どもたちに伝えるだけ  
では、ピア本来の意味で  
は異なる。  
私たちは、「理想のピア  
とは」をテーマに、平  
成22年度から大学生によ  
るピア・エデュケーショ  
ン活動の支援に携わって  
います。今回はこの3年余  
りの活動状況について報  
告する。

ピア活動を行っている  
のは看護学生が多いが、  
看護師の場合は将来全  
ての人が性教育に携わるわ  
けではなく、活動が将来  
の仕事につながるに  
く。このため活動に対す  
る思いの深さに差が生  
じ、継続率にも影響する  
恐れがある。

養護教諭の場合は就職  
後、性教育に関わる機会  
があることは間違いな  
い。また教育理論を履修  
しているピア活動は、岡山  
SRH研究会主催の性教  
育講演会を聞いた大学生  
の「ピア活動をしたい」  
という思いがきっかけで  
始まっている。発足時は  
新聞にも取り上げられ  
地域からも関心を持たれ  
ている。学生のメンバー  
は、主に教育学部養護教  
諭養成課程の4年生であ  
る。

この大学生のグループ  
によるピア活動は、岡山  
SRH研究会主催の性教  
育講演会を聞いた大学生  
の「ピア活動をしたい」  
という思いがきっかけで  
始まっている。発足時は  
新聞にも取り上げられ  
地域からも関心を持たれ  
ている。学生のメンバー  
は、主に教育学部養護教  
諭養成課程の4年生であ  
る。

ピア活動の場を増やすこ  
とができました。小・中  
学校での思春期保健講座  
だけでなく、個人と向き  
合える思春期相談や、保  
護者に関わることででき  
る場ができたことは思春  
期保健相談士としてとて  
もよい機会になりました。  
今までのことから  
助産師資格を取得して

#### 活動内容

ピア活動への具体的な  
支援としては、平均2週  
間に1回程度、約2時間  
の勉強会を岡山SRH研  
究会の会員が中心となっ  
て行っている。大学生の  
主な活動は講演だが、他  
にも当研究会会員宛てに  
来ているメール相談や日  
本思春期学会が主催して  
いる性の掲示板への質問  
に、学生たちが当研究会  
会員のチェックを受けな  
がら回答している。さら  
に高校で月1回生徒の性  
の問題のカウンセリング  
活動を行っている。  
学校での講演は1期生  
(中学校3校、高校2  
校、大人向けセミナー2  
回)、2期生(中学校4

子どもたちの気持ちに  
即した、一方的な押し付  
けでない講演は中学生に  
好評である。また講義の  
中では伝えきれないこと  
や、理解できなかった内  
容に関しては、後で掲示  
板等で質問ができるよう  
にしていることも良い結  
果に繋がっている。  
このピア活動に参加し  
て卒業した学生は養護教  
諭として各学校に就職し  
ており、性教育において  
非常に活動的である。実  
際に、具体的な性教育事  
業がなされていなかった  
学校に外部講師を呼んで  
の性教育講演会を企画し  
たり、保健室を「性的お  
話ルーム」として開放し  
ている卒業生もいる。  
問題点としては、学生  
を行う予定である。

#### 利点・問題点

3年余りピア活動の支  
援に携わってきたが、そ  
の間延べ30校以上の学校  
で講演やメール相談、カ  
ウンセリングを行ってき  
た。年々講演の場も広が  
っている。対象学生を絞  
り、思春期の若者の心を  
忘れずに大切にするこ  
とを中心に指導してきた  
ことで、ピア本来の特性  
を失わない活動ができて  
いると考える。今後も継  
続してピアサポート活動  
を行う予定である。

#### まとめ

3年余りピア活動の支  
援に携わってきたが、そ  
の間延べ30校以上の学校  
で講演やメール相談、カ  
ウンセリングを行ってき  
た。年々講演の場も広が  
っている。対象学生を絞  
り、思春期の若者の心を  
忘れずに大切にするこ  
とを中心に指導してきた  
ことで、ピア本来の特性  
を失わない活動ができて  
いると考える。今後も継  
続してピアサポート活動  
を行う予定である。

学生の活動風景



性知識を教える、それを  
子どもたちに伝えるだけ  
では、ピア本来の意味で  
は異なる。  
私たちは、「理想のピア  
とは」をテーマに、平  
成22年度から大学生によ  
るピア・エデュケーショ  
ン活動の支援に携わって  
います。今回はこの3年余  
りの活動状況について報  
告する。

# 地域ぐるみで乳がん予防

## 東京・北区の取り組み



大学生がレシピを紹介

乳がん予防の推進を目指す10月の「ピンクリボン月間」には、各地でさまざまな取り組みが行われた。その中で、東京・北区で行われた地域ぐるみの乳がん予防の取り組みを紹介する。

（編集部）

北区は東京23区の北部に位置し、人口は33万4千人。都心に近く利便性が高いことから、人口は年々増加している。区全体では65人の常勤保健師が所属し、業務分担制と地区担当制を取りながら、三つの地区に分かれて保健活動に取り組んでいる。

### ◆東京家政大学と協働

10月初めに北区赤羽会館で行われた骨粗鬆症検査。この日は100人以上の対象者が受診した。10人ずつのグループに分かれて骨量測定をした後、別室で管理栄養士による食品モデルを使った栄養指導、保健師による検査結果の説明がある。さらにこの機会を生かして、一人一台ずつ乳房モデルを使って、乳がんの

### ◆地元商店街も協力

乳がん予防の健康啓発活動は、こうした骨粗鬆症検査、大学の学芸祭の場だけでなく、さまざまな機会を使った健康啓発が行われる。この日は、同大学の学生が、手作りのリーフレットを手に検診受診者の前に立った。学生たちは、乳がん予防キャンペーンのために、栄養面に配慮し、家庭で手軽に作れるオリジナル料理を考案。検診受診者の方に説明してレシピを配り、この料理を特設の力で食べられる学芸祭への来場を勧めた。この日骨粗鬆症検査を受けた成人保健担当保健師3人が中心となって企画。課全体で一丸となって取り組み、関係部署の協力を得ながら、地域ぐるみの活動へと広がっていった。

北区は平成22年度に東京家政大学と「連携協力に関する包括協定」を結び、さまざまな事業で協働している。同大学はわが国の女子大学の中でもいち早く乳がん予防の啓発活動に取り組んでいたことから、昨年度初めて、北区との協働による乳がん予防の健康啓発事業が実現した。

同大学との協働作業は、ポスター・チラシのデザイン協力、オブジェの制作、学芸祭に保健師らが出向いての出張健康啓発などが行われ、乳がん予防の啓発に相乗効果が期待されている。

会館入口のオブジェ

### ◆広告バスが区内を走る

キャンパインの告知に際しても、さまざまな手段が試みられた。会館の外には「10月は乳がん予防月間です」の懸垂幕を吊るし、区内を巡るコミニティーバスにはキャンパイン告知のラッピング広告を施した。

健康以外で会館を訪れる人や、街を歩く人の目に触れるための工夫が、実現には区役所内で調整が必要だった。懸垂幕には庁舎管理係や各会館の管理事務所、コミニティーバスのラッピング広告には交通担当課など。まず周囲の関係者、続いて関係部署の理解を得るまで、何度も足を運んで段取りをつけた。担当の保健師は「こうしたい、という夢の実現する。乳がん検診受診率の向上、がんの早期発見につながるのが課題。そのため啓発活動を徹底し、3月の『女性の健康週間』も生かしていきたい。次の目標を見据え、すでに動き始めています。」

## 「世界の妊産婦死亡の改善を」 WHOモニール氏が講演

世界保健機関(WHO)の南アジア事務局長のモニール・イスラム氏が来日し、10月8日、東京・市ヶ谷のジョイセフで講演。本会も会員団体の一つであり、開発途上国の妊産婦死亡の改善を目指すホワイトリボン・ジャパンの会員団体の一つとして、世界の妊産婦の健康の問題と、改善に向けての国際的な取り組みの現状について報告した。

2015年までの国際社会の目標、ミレニアム開発目標(MDGs)の八つの目標の中で、健康に関する目標は「乳幼児死亡率の削減」や「妊産婦死亡の改善」など。イスラム氏は、その他の疾病の蔓延の防止の三つ。この内、乳幼児死亡率は減少しているが、一定のところで横ばいとなっている。

イスラム氏は、「乳幼児死亡率を減らすには、その半数を占める新生児死亡を減らす必要があるが、妊産婦死亡が減らないために、新生児死亡も減らない」と指摘。妊産婦の健康の問題については、「避妊へのアクセスがない女性が特に多い」と指摘。そのために人工妊娠中絶が妊産婦死亡の原因となっている。また若年妊婦が多く、妊産婦死亡の20〜30%が思春期女性という国もある」とし、「われわれの取り組みはここで終わるわけにはいかない」と述べた。

MDGsに続く「ポストMDGs」については、「人口移動、高齢化、気候変動などの社会状況の変化を踏まえ、さまざまな議論がなされている」とし、「保健の分野が埋もれないよう、日本政府にも働きかけてほしい」と呼び掛けた。

### ④ ドレーパー氏来日

(前号の続き)  
ウィリアム・ドレーパー氏を日本家族計画連盟(以下、連盟)として招聘する以上、どのような名目がよいか話し合われ、結局翌年の昭和42年(1967)8月、新潟で開催予定の母子保健・家族計画全国大会のゲストスピーカーとして招くことに決定した。

同年5月、連盟の事務局長としてチリのサンティアゴで開かれた第8回国際家族計画会議に出席した国井は、帰途米国のワシントン

## 家族計画連盟の歩み

本会会長 近 泰勇

であるかを政財界のトップに理解させ、これに対して日本政府として資金を拠出させる。その中には国際家族計画連盟(I.P.P.F.)への拠出金も入る。これによって、I.P.P.F.のメンバーとしての役割も果たせる。国井はドレーパー氏に会ってもらう要人のリストアップを始めた。

当然、首相をはじめとして外務大臣、大蔵大臣には会ってもらう

が、実際に直接会ったのは当時保健会館の嘱託をしていた赤木氏で、彼は政界にいろいろなルートを持ち、特に岸信介元首相の秘書をやっていた山地一寿との関係が深かった。

このことに対して日本政府の協力を求めるために、連盟の要請に依りて8月、戦後日本の経済発展の恩人ともいえるドレーパー氏の来日を決定し、8月10日の離日までの

首相をはじめとする政財界のトップとの会談の実現に岸元首相の力をいただきたく、山地氏から話し願えないか。

例えば、初日の8月1日は最初に岸元首相、次いで佐藤首相、午後は宮澤経済企画庁長官、牛場外務次官。翌2日は一万円円銀総裁、植村経団連副会長等、政財界のお歴々。そして3日〜4日は新編へ移動、母子保健・家族計画全国大会で特別講演、5日〜6日は韓国。7日韓国から戻ると休む間もなく核田日経連代表、8日は三



「乳がん検診受診率の向上、がんの早期発見につながるのが課題。そのため啓発活動を徹底し、3月の『女性の健康週間』も生かしていきたい。次の目標を見据え、すでに動き始めています。」



# 海外情報クリップ

## 国際家族計画連盟(I P P F)は人工妊娠中絶の問題に長年にわたり取り組んできました。I P P Fが2012年1月に発表した「中絶に関する行動計画 (Abortion Strategic Action Plan) 」が、今年計画

## 女性の権利としての安全な中絶と避妊

I P P F

画では、2014年末までのさまざまな目標を設定しています。女性が安全な中絶を選択でき、誰でもそれにアクセスできる制度を構築するため、I P P Fの各地域の加盟協会は自国の行政と民間からの支援を得られるように働きかけています。

この目標はI P P Fの最先ミッションとして今回の3年計画から導入されました。行動計画には主な目標が三つあります。

①安全な中絶サービス (医学的に安全な中絶と不完全な中絶の再治療) を現在の2倍にする。

②中絶クリニックを有する加盟協会において、近代的な中絶ができるよう

せられてきましたが、今初めて法改正され、最終3年に軽減されることになりました。ルワンダの青年活動家らがI P P Fの協力により、中絶に関する現在の法律が女性に与える影響を調査した結果、この法があまりにも現実離れしており、多くの女性が影響を被っている実態が浮き彫りになりました。ルワンダの刑務所に服役中の20歳の女性の日記です。

「私の名前はアンとい

## 米国でいまだに多い 腔外射精による避妊

米国イリノイ州デューク大学産婦人科のグループがこのほど公表した調査結果によると、15〜24歳の米国女性の31%は避妊法として腔外射精を行っていることが分かりました。これら女性の望まない妊娠は21%にもなり、そのためには緊急避妊薬を勧め、早い段階で効果の高い避妊法を取り入れるように指導する必要がありますが再確認されました。

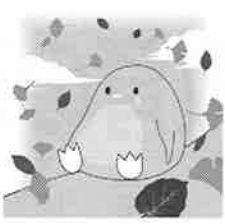
この調査は、避妊や結婚・離婚の実態などについて米国保健福祉省が行う全州の家族動態調査の2006年〜2008年のデータから、15〜24歳の女性約2200人を抽出し、腔外射精だけの避妊その他の避妊法と比較しています。重要な

「多くの効果の高い避妊法は女性が行動しななければならないことが多く、例えば、わざわざ通院して処方箋をもらい、薬局で毎回避妊薬を購入し、毎日忘れずに服用するという煩雑さ。費用だけでなくそのための移動時間などを含めるとかなりの負担になる。また、コンドームによる避妊法は男性パートナーに依存しなければならず、想定外の行為などの場合は前もって準備ができません。その場の緊急の避妊法として腔外射精をするという状況は理解できるといいます。重要な

「私のお金が、医療技術の進歩に脚光が当たる中、なかなか聞かされてこない悩みですが、実は多くの当事者を苦しめている治療費。今回はお金の相談からのお話です。」

「私のお金が、医療技術の進歩に脚光が当たる中、なかなか聞かされてこない悩みですが、実は多くの当事者を苦しめている治療費。今回はお金の相談からのお話です。」

「私のお金が、医療技術の進歩に脚光が当たる中、なかなか聞かされてこない悩みですが、実は多くの当事者を苦しめている治療費。今回はお金の相談からのお話です。」



不妊・不育治療を続ける中で、切っても切り離せない問題が「費用」です。助成制度により高度生殖医療の治療費負担が軽減されるとはいつても、条件が合わずにその恩恵を受けられない方も少なくありません。そして他の疾患との最大の違いは、治療の結果には個人差があり、経費の予測がつかないことではない

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ



診療は毎週火、金、第2土曜

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

「このように不育に関する相談も増えてきました。不育症治療中の妊娠23週30代前半の女性からの相談です。不育症治療でやっと妊娠できたのに、その病院で出産すると最低でも85万円以上かかるということが分かった。貯金が200万しかない、生まれてくる子に何かあ

## 第34回 全国歯科保健大会

「大会テーマ」豊の国から豊かな国へ「医科歯科連携で築く健康長寿」

「主催」厚生労働省、大分県、大分市、日本歯科医師会、大分県歯科医師会

「日時」11月16日(日) 12時30分〜16時40分

「会場」iichiko 総合文化センター

「問合せ」大分県歯科医師会 ☎097(545)3151

「大会テーマ」豊の国から豊かな国へ「医科歯科連携で築く健康長寿」

「主催」厚生労働省、大分県、大分市、日本歯科医師会、大分県歯科医師会

「日時」11月16日(日) 12時30分〜16時40分

「会場」iichiko 総合文化センター

「問合せ」大分県歯科医師会 ☎097(545)3151

「大会テーマ」豊の国から豊かな国へ「医科歯科連携で築く健康長寿」

「主催」厚生労働省、大分県、大分市、日本歯科医師会、大分県歯科医師会

「日時」11月16日(日) 12時30分〜16時40分

「会場」iichiko 総合文化センター

「問合せ」大分県歯科医師会 ☎097(545)3151

## うるおい不足によっておこる性交時の痛みや違和感を緩和。

リューブゼリーは、あなたをいたわる局部用潤滑ゼリーです。

リューブゼリーは、乳がん早期発見の大切さをひろめる「ピンクリボン運動」を支援しています。

局部のうるおい不足に!

- 無臭・無色透明
- 自然でなめらかな使いごち。
- さらっとした水溶性。
- 殺菌処理済。
- アレルギーテスト済。

※リューブゼリーは、お近くの薬局・薬店・ドラッグストアの「衛生用品コーナー」にてご購入いただけます。またホームページからもお問い合わせいただけます。

さらっとした自然なうるおい。

リューブゼリー Excellent

内容量55g 1,000円(税込1,050円)  
内容量110g 1,800円(税込1,890円)

ヒアルロン酸Na・コラーゲン配合でうるおい長持ち。

リューブゼリー Hot

内容量30g×2本 2,000円(税込2,100円)

とろっとなめらかに広がる温感タイプのゼリー

リューブゼリー Hot

内容量55g 1,000円(税込1,050円)

## うるおい不足は 誰にでも起こります。

- 更年期や加齢に伴う身体的な変化
- 職場・家庭におけるストレスの蓄積
- 不規則な生活、過度なダイエット
- 授乳期・出産後

# 避妊教育ネットワーク

リレートーク ④④



末包氏

産婦人科の学校医として  
 産婦人科の学校医として、25年がたちました。開業して間もなく阪神・淡路大震災があり、平成9年より、尼崎市医師会学校保健担当理事に就任し、産婦人科医が学校保健に、どのように関与できるのか考え、思春期教育の充実しかないかと思ひました。その当時、北村邦夫先生の性教育の講演を聞いたのが、性教育の関わりでの初めでした。幸いに、尼崎市医師会では、全

校医制を実施して、校長は主任校医と協力校医A、Bで仕事内容が違い、主任校医と協力校医Aは内科健診に従事し、協力校医Bは専門医を生かして健康相談や講演活動を実施してきました。産婦人科医は協力校医Bとして、平成8年度より市内の小・中学校で性教育の講演活動を始めました。主に市内の中学校、20校を2年1回まわる予定でしたが、最初は教育関係者、行政の理解が少なく講演依頼があ

り、尼崎市の学校の性教育の取り組みは、15年前より学校内に養護教諭が中心となり、性教育研究会が開かれていました。性教育に対して、養護教諭の先生方の理解があったのが助かりました。現在では、産婦人科医3人で協力して、2年1回のペースの講演活動が定着してきました(表1)。

# 尼崎市における性教育の取り組み

末包クリニック (兵庫県尼崎市) 末包 博昭

表1 尼崎市の学校保健専門医派遣依頼件数

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
整形外科	4	2	3	0	0	4	1		
産婦人科	5	7	7	10	6	9	7	12	16
皮膚科	1	1	1	1	1	0	4	1	3
精神科			1	0	0			2	1
泌尿器科				1	0	2			
小児科					1	0			
合計	10	11	11	13	8	9	12	15	20

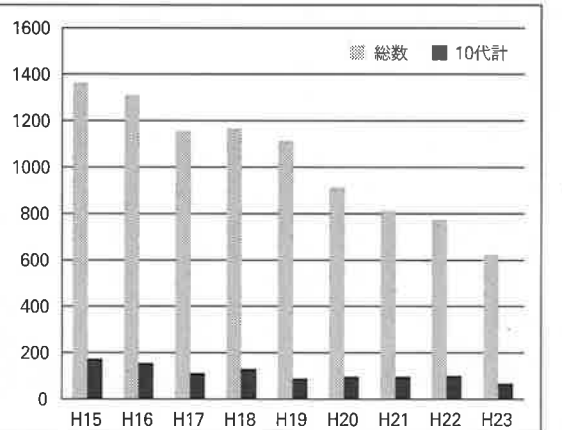


図1 尼崎市の10代の人工妊娠中絶

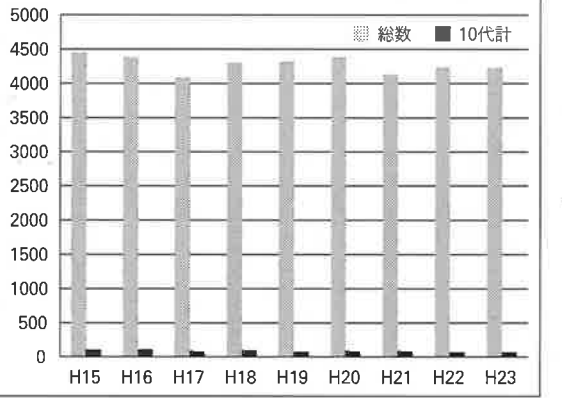


図2 尼崎市の10代の出産

望まない妊娠の防止に向けて地道な活動を続けてきた。現在お産は年間340人、採卵胚移植は150人ほどです。診療の間を見つけて、性教育講演を行って来ました。最近、少子化の中で女性の晩婚化や卵の老化が問題視されていますが、今後、思春期教育の中で、女性にとつての妊娠の最適な年齢や、不妊症についてもお話して、これから考えています。将来に向けていろいろ課題は山積していますが、これからは、産婦人科医としての女性へのライフサイクルに合わせ、地域に密着した医療を、やれることから、こつこつと実践していかなくてはと思っています。

## 12月の母子保健指導員研修会

【テーマ】乳幼児の視覚障害(気づきのポイント)  
 【講師】和田直子(日本視能訓練士協会理事)  
 【日時】12月10日(木)13時30分~15時30分  
 【会場】本会多目的ホール(東京都新宿区市谷田町1-10保健会館新館地下1階、JR・地下鉄市ヶ谷駅下車)  
 【対象】母子保健に携わる保健師、助産師、看護師等の有資格者

【参加費】当日会員は3千円(当日会員として参加される際は、必ず事前に電話またはフaxesでご予約ください)  
 【問合せ】03(3266)4727  
 FAX 03(3266)2658 (齋藤)

## 読者の声

前号の「トピック」欄で、今年の厚生労働省を取り上げました。読者の声を紹介します。若者の出産意識については「わが国は、出産・子育てをリスクととらえてしま

望まない妊娠の防止にむけて地道な活動を続けてきた。現在お産は年間340人、採卵胚移植は150人ほどです。診療の間を見つけて、性教育講演を行って来ました。最近、少子化の中で女性の晩婚化や卵の老化が問題視されていますが、今後、思春期教育の中で、女性にとつての妊娠の最適な年齢や、不妊症についてもお話して、これから考えています。将来に向けていろいろ課題は山積していますが、これからは、産婦人科医としての女性へのライフサイクルに合わせ、地域に密着した医療を、やれることから、こつこつと実践していかなくてはと思っています。

## ジャフパ情報

【略歴】昭和26年神戸市生まれ。昭和52年久留米大学医学部卒。慶應義塾大学医学部産婦人科教室入局。済生会中央病院勤務。昭和59年医学博士學位授与(慶應義塾大学)。神戸海星病院勤務後、昭和63年尼崎市末包クリニック開業。尼崎市産婦人科医会副会長(性教育担当)、兵庫県学校保健委員。

少し前に有名な高年齢出産の話題がテレビをにぎわせた。そういったメディアの影響から、年を重ねても産むことができると思っている人が少なくありません。しかし、実際には妊娠・出産には年齢の限界があります。晩婚化・晩産化が進む中、いざ子ど

【タイトル】「将来、ママにパパになりたいあなたへ」妊娠・出産のデメリット

【仕様】A5判・14ページオールカラー

【価格】本体150円(税別、多数割引あり)

【見本】見本の送付を希望の方は「将来、ママにパパにサンプル希望」と記入の上、送付先を添えて左記までフaxesください。

FAX 03(3266)2658 (吉村)



新作教材 将来、ママにパパになりたいあなたへ

## UNFPA公開シンポジウム「母親になる少女」

国連人口基金(UNFPA) 思春期の妊娠問題に取り組む「少女」をテーマに開催されます(協力：本会他)。

【日時】11月7日(木)14時~16時30分(会場)国連大学(東京・表参道)

【参加申込】ジョイセフ

FAX 03(3266)9776

## 女性のカラダとココロ、ライフデザインをサポート

OC情報センターはOC(低用量ピル)に関する正しい知識の普及を目指しています。

**[http://www.pill-ocic.net]**

●参加製薬会社(五十音順)●

あすか製薬株式会社    MSD株式会社    科研製薬株式会社    ハイエル薬品株式会社    持田製薬株式会社